
西遠労務協会 メールマガジン No. 72

平成 21年 4月 30日

《こんなとき。社員の気持ちを考えたら面談が必要です》

■Aさんとの立ち話

4月後半、ある企業にうかがったときのこと。30代半ばの男性Aさんとちょっとした立ち話をしました。Aさんはとても感じのよい親しみやすい方で、これまでも私はときどき短い会話を交わっていたのです。

Aさん「実は私、4月から部署が変わったんです。」

山口「あ、そうなんですか。どこに変わったんですか？」

Aさん「おとしまでいた〇〇に戻ったんですよ。」

山口「そうですか……？」

Aさん「何でなんでしょうね……わからないです。」

山口「会社から、説明はなかったんですか？」

Aさん「全然！こっちの気持ちなんてどうでもいいんじゃないですか、会社は。まあ、言われたとおりやるしかないから、しょうがないですけど。」

部署が変わること、それは、お客様も一緒に働く仲間も、また業務自体もまったく変わってしまうこと。当人にとってもものすごく重要なこと。ましてやこのケースでは、Aさんはおとしまでいた部署に戻ることを命じられたのです。「こんなにすぐに元の部署に異動だなんて、何か自分にまずいところがあったのだろうか」と、Aさんは考え込んでしまったようです。

その後すぐお目にかかったその会社の社長さんに「Aさん、部署が変わったそうですね。」とさりげなくうかがってみました。すると、「〇〇(Aさんが今回戻った部署)は、やっぱりA君にいてもらわないと困るんですよ。」とのお言葉。つまりAさんがまずかったのではなく、彼でなければと、実はAさんを評価、期待しての部署異動だったのです。

■社員のヤル気を引き出すのも、つぶすのも、会社次第

こういうケースって、案外多いのではないのでしょうか。会社は社員の気持ちはどうでもいと思っている？いえ、どうでもよいわけではなく、社員の気持ちを考えることの大切さに気付いていない、だから話しができていない、そんな気がします。でも、人はなぜか物事を悪いほうへ想像してしまうもの。ですから今回会社から何も説明を受けていないAさんが「何か自分がまずかったのか」と考えてしまうのは無理ありません。けれどここで会社がちょっとした時間を持ち、「〇〇はやっぱりA君にいてもらわないと。もう一度戻ってほしい。」と伝えていたとしたら、移動するAさんの気持ちががどんなに前向きになり、ヤル気が出るでしょう。

今回は、社長さんに「Aさんには異動の理由、伝えられたのですよね？」とうかがい、「あ、特に言っていない。」とおっしゃるので、「期待していることをお伝えしたほうがいいんじゃないですか？」「そうだよな！」という事になりました。またAさんと立ち話をする機会を持ちたいな、と思っています。